



99年、テレビ番組「TVチャンピオン」(テレビ東京)の「ラッピング王選手権」に出場し優勝

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1970年草加市生まれ。越谷南高校卒業。短大卒業後、幼稚園教諭に。退職後、ラッピングコーディネーターの資格を取得。現在、ラッピングコーディネーター、おもちゃコンサルタントとして各イベントへ参加するほか、教室・講習・執筆活動など幅広く活躍中。03年に越谷市に転入。

「子どものころからものを作るのが好きで、何か作ってはプレゼントしていましたね」
ちょっととした贈り物でも、身近にあるきれいな紙やハンカチ等を工夫して包んで渡すと、とても喜ばれて驚いたり感動されたり。「褒められるとうれしくて、ますます腕に磨きをかけていきました」と明るく笑う武田さん。ラッピングコーディネーターとしての資質は幼少のころから備わっていたようです。

また、お母様が家庭保育の仕事をしていて、いつも身近に赤ちゃんがいたため、武田さんは自然に子どもが大好きに。「もの作り」と「子ども」が大好きな武田さんは、短大卒業後就いた保育の仕事で、子どもたちといっしょにものを作ったり包んだり、とても楽しい時間を過ごしました。

ある年のクリスマス、園児へのプレゼントを白い天使を貼った赤い画用紙で包んであげたら、「ばく大事にする。一生持つているよ」と言われました。武田さんはその言葉がとてもうれしくて「もっと驚かせてやろう、もっと喜ばせてやろう」と思ったそうです。そして、本格的にラッピングの仕事をしたと考ええるようになり、資格を取るために基礎から勉強し直しました。「あくまで主役は中身、過剰にならないように、受け取った人が笑顔になるようにと心を込めて包みます。しきたりに合った基本の包み方から季節・目的・贈る相手のことなどを考えてラッピングすることが大切です」



ラッピングコーディネーター
武田 真理恵 さん

子どもが好き、人の喜ぶ顔が好き、
たくさんの人の笑顔が見たい。

幼児教育から離れて別の道を進んでも、
また子どもたちのところへ。

「『ラッピング』『おもちゃ』って、子どもと
つながっているんですね」

と笑顔で話す武田
真理恵さんにお話
を伺いました。



MARIE FACTORY

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/mariefactory3/>

活動の場は主にカルチャースクールや学校、保育教育者対象の講習会など。デパートや雑貨屋などの従業員対象のラッピング講習会では、いかに早くきれいに包むかといったラッピング指導もしています。現在は、おもちゃコンサルタントとしての活動を並行し、あえて区切りをつけないで活動しているそうです。ラッピングに簡単なおもちゃをつけてみたりするなど新しいイメージがどんどんふくらむとか。

越谷に住むきっかけは、昔から買い物や遊びに来ていて、自分の家の庭のようななじみのあちの交流の場になっていきます。夜の講座は勤め帰りの方が多く、喜ばれているようです。「子どもからアイデアをもらったり、年配の方に風呂敷を使った便利な包み方を教わったり、はっとさせられることもあります」と参加者から学ぶことも多いと言います。

ラッピングの仕事は、相手あつてのもの。愛が原点、そして相手の喜ぶ笑顔が武田さんの原動力となっているようです。